三家發句解

上

培蒙

ガラス使用

培堂

明治十四年

培堂文庫

7769

たゞ我義句解世に行はるゝのあまたゝびなる中に雪中菴便乃著はせる句解をとりて人〻とゝなひ〻〻帳中ひ秘書にとゝ中にいさゝか此事ちめいりて毫釐ひ差もまた千里を謬ることなりやせん能静老人に乞ひきくまゝ

渉猟の中に古人の名語を用ひ紀〻かゝえて自家
參考し歌世話ありもきを為
てもいつまでせく松蔭老乃
宮下に筆を揮ふ志ゝ

文化二寅年冬　武陵湖上谷　笠雨敬人

凡例

此考ハ先師蓼太句解にもとゞて考
を記すなり中いにしへの師説を齟齬
するものハ是所に異考則考と云る以
説と云るして句解の説と畧記以
ものゝ既に句解の棒行あるゆゑ也
句解乃まゝ可考ものゝ好きハ句と不出
無句解ハ加圏以別之
従春之部依蝶夢芭蕉句集出

其考をとゝ[illegible]且愚考をとゝ[illegible]

文化三寅秋

能静廬

莊丹謹記

芭蕉句解参考上

能静叟莊丹著

菜囪　菜英校

炭俵

蓬莱よゆりたる伊勢ゑび初たより

説　此春い伊勢ゑびをとりて人おくりたる

うめ[illegible]きき花相子ゝ　慈法

考　説義大全（素丸子編）拾玉和歌集（慈法家集）第四

加茂法樂詠百首和歌（是十五首の内

さいのたゝい[illegible]　詞書那[illegible]又類句[illegible]

度のと書出したりあるとなれど
百菴萬々集夫木集にも載之水間う
藻塩草このかこうあまて第四の句
道あるゆゝあまる慈鎮和尚の眞蹟一
帖を管見しるゆゝ此こもい決之玄素
かゝこ器之

蒟蒻よゝゝふい賣うゝ若菜ゝ邪

説 拾遺集物の名 野とをみをいきめ緑
まちたゝらこ。ぴ。やゝまゝしうわこも

○炭俵 春雨や蛙の巣はさゝふ屋根のもと

考 新古今閑中乃春雨ふることを
はたゝゝと春のかゝあはひしたふこの
あはたゝふ軒のゝ玉水 大僧正行慶

○路草亭 春の衣の濡とも折らむ雨の花

考 樵歌あえいありきあかわるしめる
とゝもゝ春のかゝ夏にくゝきゝ 實方

さゝれたのの柳乃はたゝれ

錦纏枝玉連環文

説 宇陀法師二集許六サハル柳ノ玉連環ノ体
東坡喜禅集寄内静思伊久隔帰期
憶別離時聞漏転 考 眉公陳先生
縁纂搜奇全書

讀法

静思伊久別離期
別離期憶但帰時
憶帰帰時聞漏転
時聞漏転静思伊
分類故事要語十二見タリ

静ノ字ヨリ起ル静

浪化集サハル柳去来許六支考サハル柳十リ
史邦小文庫元師ノ句按ニ首キレ連歌ノ
説アレトモ丹按ニ俳諧ノ句ハ俗語ナレハ元来
詞ツヽキツヽカス歌連歌トハ別十リ首キレヲ
トカメハ皆キレテツヽカス故ニ此説ハ不取

取て氷る僧の履の音 二月堂ノ行法

説 若狭遠敷大明神ヨリ二月堂観世音
ヘ献セシメ玉フ水涌出硯ニ汲ミ霊符ヲ印ス
一コモリノ僧佳十九カ 考 履ノ音ノ氷ヲ

○参考上

フムコトヲヒヽクヲ云ナルヘシ亦佳ナルカ

蕭帰〳〵まあそれい塚のきみも草

説 呂丸ハ出羽羽黒ノ麓ノ人唐ノ孟遅カ蘇涯ノ

呂丸ハ拾ひて子孫也

蕭一名ハ當帰 考 閑情ト題アリテ山ノ

おもかげ出たり

上ニ有山帰不得湘江暮雨鶴鴉飛

是一二ノ句也王孫ハヌハリ草又ツナハリ

○〳〵略〳〵

蝶夢芭蕉発句集ニ出タリ

山橋尾蛸〳〵

説 尾フクモノハ二ノ藏王堂ヲ云カ 考 長嘯

子山家ノ記ニ見挙白集ニ住ル所ハ尾フケルモノニヲト

アリ此文ノ詞ヲ用フルナラム蕉翁此集ノ文ヲ

好ム下云山家ノ記ニツアリハヒメノ記ナリ

○何乃木濃芋蕷〳〵白りぬ

考 一ニ〳〵ぬ〳〵れ親句といふ説あり

山家集

何の事のおもかげ〳〵海たちかたも

か〳〵言ふかさ濃〳〵西行

何乃木ぬ

○天離上

鷇にふさ日をふくむ鶯　益光

春深き此木の椿も雪掃て　又玄

平庵　勝延　清里六人吟益光需メに

くまこえぬ分出をとても貞享五年春芭蕉　下

○螢見や船頭酔ておぼつかな

考 上林三入の所にての句也　熱田の螢見とこそ出たり

○夏の月御油より出て赤坂や

考 傳書に此句諸集赤坂やと出せるを見ゝの誤なるし先師嵐雪袖日記を読と

を哉に通ふ歟　古今　あさみどりいとより

かけて白露を玉にもぬける春の柳か　僧正遍昭

○許六か木曽路に趣しき

続猿 旅人乃こゝろにも似よ椎の花

説 許六をおくるに心を注したる文あまた略之　蝶夢芭蕉発句集に椎の花の心は似よ木曽の旅寢とあり

家ニアレハケニモル飯ヲ草枕旅ニシアレハ椎ノ葉ニモル　考 萬葉集第二巻

○ひよろひよろと猶露けしや女郎花

説 続古 何事を思ふの園の女郎花おもしろし

たれかは春をしらむ　俊惠

考　一説源一

○ちるはなをこそおもへ萩の露　杉風

考　萩塚ノ碑（在于江戸巣鴨王山真性寺）

蝶夢芭蕉発句集もこれなしとあり

萩の露の移りを題杉風萩とあり

萩桔梗　杉風

○秋風や落ちかかりたる山の色

考　さいきいか賀小松天神別當能順連歌俳諧の差別を問て云下に言る句也問の句は文字秋風にあり按ずるに山

黒ぶかくてはるかなる山のいろ　杉風

光のうせぬ春の日のいろ　杉風

連歌俳諧の口授あり。此句集にはなし

見渡せば深れいろ濃磨き秋

説　鏡花水月の妙所

考　見渡せばとは

とはの二つあらされいとられいさるうた

みるとはあるも深れいを見る味をふあ

はるの同じことをこれいとおもふあるも

うれしくうるれうる事即妙所あり

○蕉門

○風流のさきがけや奥州桃順

考 細道の句也　奥州岩瀬郡相樂伊達郡亭あり

風流乃
いちこを折てかざしけ草　等窮
みせまゝ植の苗やなをさらん　曾良

三吟 甲子紀行
○杜牧の早行の詩を小夜の中山に見てなぞらへる

○馬よ蹄〳〵殘夢月斜〳〵茅の煙

考 杜牧字牧之唐ノ人早行ノ詩丈山詩仙堂ノ之一三ヲ詩仙堂ニカクト堂ハ叡山ノ麓一乘寺村ニアリ　早行至鞭信馬行數里未鷄鳴林下帶殘夢ノ

○伊勢の國又云る宅ふこゝあられ侍る須〻〻妻乃男の心ふかく物ゝあはれにおもひ入れ侍る

勸進帳ふあり　泊船集洞書　糠蒔集のこゝ

身さへ捨ての世の習ひ妻の哀せむ

考 明智日向守いまだ浪人なりし時
古信濃にて元来酒つよく餐
（按晉陶侃之母事同之）
を進ずるに其妻ひとり取出の妻にて
のへ出し妻後日出家して髪かぶり
毛ばかりおつまに智あり一ふしの
事をとりあつかひ其妻に智十策の人
いしかつけのまゝ疱瘡を面にうれ
親のその妹と引へ一を耳にしてのくるを

きゝに初の絢をまりたまはれる感し
かるに事もあれ一ゝあれ此事信長
記大閤記明智軍記武邊物語等に見
えず妻は妻木氏とも世説武州赤城
村薬雪といふ俳諧師の祖父の父の
ものなりと此人後に道世と
柴 月やそのまゝ阿弥陀坊
説 柴の庵ときけいやしき名なれども世
ふるのまゝ住居ありしを西行山家集

或書曾テ空也無水之地穿井井必耳
涼以其常唱弥陀号俗名弥陀井往
々而在焉荒原曠野無逢遺骨据聚一
處念弥陀名ヲヨテ世ニアミタ坊ト云又市上人モ
云ト○蜻蛉集ニハこゝを云ヘリ畧す

○笠衰中菴

○ひの宮濃柳ちるまゝの草ゝ菴

考 蕉故郷在于伊賀山中

○鳴海知足亭

ちるさくら海へ流るゝ末は海 岑の栗

説 淮南子十七説林訓曰湯沐具而蟣虱相吊ス
大廈成而燕雀相賀ス 考 賀下ニ憂樂別也ト
アリ蟣ハ虱ノ子キサヽト訓ス

○旅行

細道 あらゝと日ぬ羅面も秋風

説 袖日記嵐雪書 翁生涯二三章の秀逸ト
新古今 旅人の袖ぬ通ふ秋風ぬ宿

淋しき山のけしき　定家

考 王世貞天雄道中（大名府即宋天雄軍）秋風吹テ将暮
古道行跡稀愛此微陽色射我霜中
衣只是秋境 徂徠絶句解サヒシミ同シノシテツ
レナキト愛スト力ハリタル所味フヘシ

枯枝に鳥のとまりけり秋の暮

説 夫木集 考からとまりかくらはやせむ蕭条より
鄙なれの枝のあらしきさむ 蕭条

考 此服素堂 秋くれ行霧の遠里人
今人の字を省きたる新句季吟素堂
翁家語口傳の三章に風のおとり苟
かりそ口授あり坂昌周嘗て云ら枝と
らみくらら枝よからとしひらけるとも
聞し又唐ノ李頎カ嶺ノ峨枯柳宿寒鴉
暗ニ諧フ七言律贈盧五舊居詩也
山雲ふかし密柑の色乃黄なるかな

説 第三の句なるまし 考 柳几董雨筑
紫紀行ニ伊賀ニ出津村ニ密柑の樹

家ゝ家あり故籠の句此歌の意しき附合
俳りさ[illegible]なりいつ[illegible]川みなの原此あたり
[illegible]もかゝ[illegible]山あり[illegible]のかせ山なる事
伊賀上野猿雖亭より元禄の初成九月
冒　松風る新酒をしたゝ[illegible]
支考発句猿雖服第三籠の十句あり
二の表四句目　一里の秋も獄のさびしさ
本々高野　山いろ[illegible]―――右猿蓑
支考執筆也〻猿雖の孫上野桐雨所

持[illegible]
続猿蓑　[illegible]
考　西行山家集范蠡ちやうあんの公をよめる
[illegible]
こゝ[illegible]
字ニ誤ル蝶夢ハ始テ長男ニ段史記四十一越世
家第十一ニ終ニ今臣出道路皆言陶之富人
朱公之子殺人囚楚其家多〻持金銭賂王
左右故王非能恤楚国而赦乃以朱公子故

（長男の公子いふる山家集の歌ならんこゝ[illegible]）

也楚王大怒曰寡人雖不德耳奈何以朱公
之子故而施惠乎令論殺朱公子明日遂下
赦令朱公長男竟持其弟喪帰至其母及
邑人盡哀之唯朱公獨笑曰吾固知必殺其
弟也彼非不愛其弟顧有所不能忍者也
是少與我俱見苦為生難故重棄財至如
少弟者生而見我富乘堅驅良逐狡兎豈
知財所從來故輕去之非所惜吝云云 徐廣曰 狡作郊
此事又呉越軍談康頼宝物集等ニモ近見

彼男ノ人ヲ傷リシヲ長男ノ者ニ金ヲ與ヘ
罪ヲアカナヒニヤリシヲ金ヲ惜ミ終ニ罪ニイリタ
ルヲサテ山家集ノ内西行家ノ集ナ
リ長男ハ假名ニテアリ又翁寒菊ノ氷ヲ
花ニメクハヘル財ヲ惜ムカ如シトノ觀念ノ句也
范蠡学ハ少伯後為越上將與勾踐深謀
二十年功成名遂乗扁舟適齊称鴟夷子
○老慵 蜉蝣集ニアリ

蜉蝣のいのちは海苔ちいさい老の寳もせく

説 山家集雑之部に串ふしたる柏を
おきたるを何と問られ蛤を
かけたるとかけたるとて
おもしろい蛤をもたてたるも
すべきを蛤とかいなりあり 看経
ヒキノヨシ 考 こゝは柏かゝて蛤栗の
形ちまの栗ゆも蛤い柏の引きを
さゝ串柏之栗より柏とのらたりとゆむ
○春新やゆ四門四宗もたゝ 善光寺
こゝも有

考 善光寺四方に四門ありて寺号長也四宗ハ未詳
又尚書舜典闢四門明四目達四聰とゆし八洲ゆる紀
追考東ハ定額山善光寺西ハ捨山浄土寺南
命山無量寿寺北ハ室山雲上寺トス
○越し年の男 鮎 釣り孫ゆ七里まゆ 執留
考 萬葉集第九 水江之浦島兒堅魚鉤
鯛鉤務及七日
○真 真子 歳
○歳 霜ゆ 九ゆ 松ゆ里
考 古今集第十物の名 ゆ 云
ゆ世ゆ いゆ ゆ時 ゆ云

[illegible]人[illegible]紀のめの宮

○愛方知酒聖貪賢錢神　盧栗愛作　憂佳乎

○義[illegible]酒白[illegible]飯[illegible]

考 晉書九十列傳六十四嵩傳字元道南陽人云云著錢神論　魏書清酒為聖人濁者為賢人

○[illegible]山吹ちるか笠置の[illegible]西河[illegible]

考 岸の山吹とよみなれし野の川上い皆山吹なり志[illegible]吹[illegible]れて　西河を[illegible]里人[illegible]の詭言

いくたびか[illegible]書あり　新古今　よしの川

岸の山吹[illegible]崇[illegible]桜やちり[illegible]　家隆

○粥[illegible]里[illegible]

○海苔汁の[illegible]際[illegible]海苔椀

考 海苔の紫ふ淺葱の形容

沖[illegible]や油[illegible]やうれ酒の味

説 日蓮上人報書に新麦一斗筆三本油の[illegible]酒の味南無妙法蓮華経と回向いたし[illegible]

考 見風俗文選

[illegible]飯[illegible]男[illegible]

説 袖日記に云久方の光のどけき春の日に
しづ心なく花のちるらむといふ心を
是此句の事雖一口授 考 春の日に
心をとめてらむ歌虚栗に和角蓼蛍句
こと書あり 飲酒夜起請尊朝親王御
作之由云云此文句を写して大酒に法度
なる仍一句あさう酒よし 其角 芭蕉
草の戸に家は蓼くふ蛍かな 其角

芭蕉句解参考上畢

芭蕉句解参考下

熊静間文荘丹著
菜富菜英挿

春之部

○梅 咲や古き寺に落ちる京太郎

考 和訓栞 こをり 古きをいふ拾遺十洲
物語見えし紀乃國古きの濱を
紫式部日記に伊勢の濱い西行家哥夫木
集に古き哥根倉とくみ合
古き哥も侍れい倭姫世記二白

濱ノ真名胡ノ国ト云ル所ナルヘシ
丹　按二亦山家集　濱ゝ千鳥ゝ
濱のゝ浦ゝ貝ゝ
落ル糸京太郎皆双帝ノ形容ト聞フ
○猶所ゝ行くへ
○懶の祭ゝ未ゝ潔回のおく
考　忘水此句ハ書曰旨ト有レトモ
禮記月令ニ孟春之月云云獺祭魚
鴻雁來ル

春日集
○古池や蛙とこむ水乃おと
考　岩そゝくゝ
為ス閣其意アリ畢竟閑居ノ句此照
芦の若葉ゝ蜘の巣　其角　但春日集
二八三五八
○芭蕉棚樓蜀ゝ
○面ゝ桃ゝ櫻ゝ
考　未記仙ゝ嵐雪ト書ルトアル

○桃實集にありとあまたの菓子多きに
孫子人形やもゝの花　其角　雛の日や
蟹ハ見へ人多なる　嵐雪　共に上巳の句也
○さくら花しれや義のあたり秋潤もふ
考　あすならふ　桧の類　笈の小文　日ハ花に
暮れてさびしやあすならふ
○龍門の二句
○酒のみにかたらんかゝる瀧の花
考　龍門　吉野郡宇多郡之界龍門寺義淵
僧正僧之今唯礎存スト云　李白
飛流直下三千尺　笈の小文　龍門の花や
上戸の土産にせん
○かつらき山の林際を通るに四方の花
さかりにて峯〳〵ハ霞つゝみたる明
ぼのゝけしきいとゞ艶なるにかの神ハ
みかたちあしゝと人の口さがなく世に
いひつたへ侍れハ
猶見たし花に明行神の顔

考
岩そゝく瀧のちきりも絶ぬへし
明るわひしきかつらきの神
拾遺十八大納言朝光下﨟に
侍りける時女のもとにしのひて
まかりてあかつきにかへらしといひけれは
春宮の女蔵人左近岩橋の――

○望ニテ湖水ヲ惜ム春ヲ
ゆきかへるかりの人をおしミし心
考
古今集八離別哥　さくらしきなきすまこ

の京はてみちたるのきよみかる近江
乃志かけにまかりける時に世をまかまの
たるかせけしきなりける時よめる紀の
としさた○さゝ波のなかはふかけれは
こゝ思へともよそにたけやなん袖乃
露乃きさ○　梅さくらなとのこと此たれハ志らぬもの也

道細
桜かり桜ハ二本を三月二し
考
蝶夢集出ス二夏之部一二佳也

夏之部

○山崎宗鑑屋敷にて通陽殿より
宗鑑うたがひ給ふ（時鬼）
おもひ出るうたを思出てうたのうちよ
いつ
いりかたき姿指むかもかきもつる
説 近衛殿下龍山公 宗鑑てのかきつけ
かきつけとおもしろきものをも御覧ありて。宗鑑が
姿を――と奥書あれハ

のさんとをもれこと夏月沢あり宗鑑
ものを綴かるて
考 晋子雑談集宇治へ
道遥の所のまんとすれと一ものふるこあり
或い光廣卿の発句とて
ものとき所正月（むつき）い梅乃花咲り
説 咲り 考 蝶夢集さうり
○能やこそ忘の江よ撥ふやなきいき
○ものとき所撥たふや水のうへ
考 法集世二句沾徳カ判ニテ水ノ上ニ定リスト

○灌仏や鍛冶合せる数珠の音

考 忘水涅槃會トアリシトソ

○蔓まれてもたるゝ蔓の一つ哉

考 アラ埜一ツ哉蝶夢集ニトアリ

和漢三寸圖會

石葦（ヒトツハ）

和名以波乃加波
一名以波及美

○画讃

○馬ありて〳〵土を強よりたる蔓野哉

考 泊船集冬野の形忘水蔓るゝ〳〵
土を絡よりたる形按ニ連文賦物ニ
も蔓馬あり

○家富て牧の小さき池走哉

考 小文庫ニ板垣のこと書て有云
乱れそつくさす芋と蕈ちいさきこと

○細道 暫時い潦ニ浴る也夏の初

考 下野日光山三四十八瀑あり裏見ノ

滝ハ大石山ノ崖ニ出テ岩窟アリ高サ一丈
アマリ深サ二丈ハカリ三塗川ノ堀トテ石像
アリコヨリ瀧ノ本ニ出瀧ノ裏ヲ見ニ上ル
カリ上三石像ノ不動明王アリトヽ云見ニ諸
国里人談

○ちみどりなれや春ゝ川ゝ森のゝ
考 諸集春むしろつる畑佳かる放
○細道 象潟や雨ふ西施ゝ合ふの花
考 東坡飲湖上初晴後雨首其一水光
激灩晴方好山色空濛雨亦奇欲把西湖
比西子淡粧濃抹總相宜 貴妃宿酒不
醒玄宗海棠睡未足耶 象潟合歓多
アリトナリ
○桑川許六湖別二句
○椎の花乃心ともも似よ木曽の旅
○うき人の旅ともかゝ木曽の蠅
説 旅人の心ともも似よ椎の花の解あり
考 歌ハ萬葉集第二

○細道 蚤虱馬の尿する枕もと

三尺切物三ッ 梅若菜 毎日これ宿の

ごろ汁の格

○くまもうつるかはたれ魂よばる草の月

考 諸集草の夜や魂よばる下駄の音

○いてや蚊よりきく布衾たり 蟬衣

考 諸集ちりきたりかきたり蟬衣一日却

○蚊ゐるかしらむきさる係

○蚊扇取てあふらん人のうしろむき

考 磐斎寛文の頃の人徒然草般斎抄

等あり 世の中をうしなふまて山

里にそむけるもの墨染の袖般斎抄 水諸集蚊扇をあふらん人のうしなはき

○破蕉日記 ものやくるふ夕すゝみ

考 此句ニテ素堂ト和漢ノ歌仙アリ煮茶蠅

避煙 素堂見三ヶ月日記 諸集 破

蕉入り物やうすき夕すゝみ

○睡水不形をかゝひ立いる水

○さてしらぬ君まつゆる住居かな

考 忘水花潭の工の名圖にあり

○秋芳野宣白の招ふ所にて遠の
麓をなくさむ 又稲葉山の松
乃下さくさくして

○

○山の音や水をやしめすむ姫り畑

考 笈日記落梧仍りしの招よ 稲葉山を
美濃也岐阜也

○初雪葉写身面やうらむ海まやせん

考 諸集題やうらん

○雪葉の別樓也

○朝霧ふくさくさ拾ふさくさ瓜の泥

考 忘水瓜の土諸集直葉瓜

○さらさら解写足くさ元よ影清ふ武

考 足い芦ねらむ

○晋の洞明をさくさやむ

○窓形ふる盆森のこさやたのむさく

考 忘水臺や諸集芳や 晋書隱逸

傳陶潛字元亮潯陽人大司馬侃曾孫云云嘗言夏月虛閑高卧北窓之下清風颯至自謂羲皇上人

○細道暑さを海に入たり寂上川

考雪九メミセそしたや海よいまるる

○井 狗氏水樓

○世農夫や湖ゑるうふ浪のうへ

考拾遺たゝむ

○長川原臨たる賀茂氏水樓ゆるる

十八樓乃記なり

○山あゝ雨と同よる見ゆ夕の皆涼し

考笈日記ものハ記い見風俗文選

秋之部

○大津小侍りを見ゆるゝ

消息せゝれハ蝶夢集ゝ夕ハ白里了侍り盃ゝをいとゝおむまゝ有

○家いゝれ扶ゝ白髮の墓ゝ

考陸奥千ゝ一家みゝ白髮ゝ杖忘水

一家みゝ初ゝ陸奥ゝ桃蹄

奥行脚の集蕉翁の嫡なり

○細道むさんやれ兜の下のきりぎりす

考 きりぎりすあれむさんやれ 寶盛の謠曲花實集此年の冬始て不易流行の教を説メマヘリ

○蓑ごろもうつ〻心みよらき毒をくらはや

考 和漢三才圖會芳野の奥苔の清水西行法師菴室跡有遺像 浅くても よし野の文殊人もあり 象ヶ山

○細道いくとしとおつる岩間の苔清水 西行 浅くても あきの住居 乗

考 山家集 ちぢの人 ちぢの人 ○ 文殊 文殊 西行 とかり

○細道浪に関 小貝 海 ふる 蛙の声

考 山家集 色濱 色濱 越前

○武蔵国 蓑 時行 仁 ちぢ ちぢ 政 政

○明月の 月 ふる 十一箇條

考 平朝臣貞永元年七月十日ト御成敗
式目ニアリ

○名月の花ちるとへて錦をけ
○名月よ姿もとの雪や田のくもま

考 續猿蓑支考評 月をまつ雲の秋の
雲ぶくれかすりんあること初時なるか 象位法師
老杜カ唯雲水ノ三ナリトイヘル其次ノ棉島月
ノカツラノミヤハナルヒカリヲハナトチラスハカリ
ニ花ニ清香月影アリテ云云 古今物名

秋ちれ小角の松ちるやあるる光を
○ゆきおの鶴 人乃絵をいふこと形ちを
おのまつ長を伝ふなかき

○ものいへい唇寒し秋の風

考 文選十五座右銘崔瑗兄璋為人所殺
瑗遂手刃其仇亡命蒙赦而出作
此銘以自戒嘗置座右故曰座右銘
後漢崔瑗字子玉涿郡人早孤銳志
好學能傳其父業舉茂才為汲令

無道人之短無說己之長云云

○保生仙方夫三吟ふ

老の名のみとゝもしらて四十雀

考 ゝる樗樗之取持許六文通真蹟蓑

掛抱おかの尼の餘情ふかきあるもし

おのゝ神ゝきゝとれのあるゝるまゝて

とゝもしるのみゝらむ

○菓乃号や庭てきれゝる履の底

考 同文通三十月九日とのゝ

○園女家にて

ゝゝゝ菓の同ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

說 考 紅葉ふみ月ゝの安

哥仙あり 訊竹 渭川 支考 惟然

洒堂 舍羅 何中

○抑衝可休亭

○祖父と親ゝその子孫庭面拂みゝん

考 北條盛衰記五席列里見家事二古哥三

親のゝ子のゝまて山賊の榾乃火

[illegible]　此哥考見于片雪句解

冬之部

○新[illegible]の出[illegible]

考　去芳曰此句八暮秋頃伊賀ニテ早クヤ出サレシ句トソ

○金屏の松の姿[illegible]久[illegible]

考　樵之都義許六文圓姫[illegible]ありし

忘水屏風[illegible]山を画[illegible]

○水かゝ[illegible]の[illegible]

考　多示葉の[illegible]ありし　堀川太郎百首　東路の[illegible]彼の関屋の[illegible]馬やり姫[illegible]　仲實

外村八盤[illegible]と同時寛文の頃の人と[illegible]

○和の[illegible]人[illegible]世[illegible]

[illegible]乃後[illegible]の墨[illegible]

[illegible]天津松[illegible]

尼の[illegible]尋[illegible]

[illegible]出[illegible]

○お將の尼の[illegible]や志賀の雪

考 清巖茶話 友京伝實の女 藻壁門院のお將 [illegible] 源平盛衰記 [illegible]

○ [illegible] 馬 [illegible] 師

考 笈の小文 [illegible] 奥の棚

○ [illegible] 鯛の齦も [illegible]

考 唇竭則齒寒 左傳僖公五年宮之奇語

句兒第其角此句ヲ第トシ声カレテ猿ノ歯

白シ峯ノ月 出巻末 棚ハ店ノ字佳カ

○ [illegible]

考 二字返音蜷 芭蕉素堂信德三吟三百句

○月白き師走 [illegible] 子路々々 [illegible]

考 中庸十章子路問強子曰南方之強與

北方之強與抑而強與寛柔以教不報無道南方強也君子居之衽金革死而不厭北方之強也而強者居之

○蛤の生ふるしあれとしのうれ

考 陸奥名産蛤も

○みちかくの雨乃ひいなをたりて

○世ゝ嫌ゝも文なる宗祇のやとり汁

考 笈日記に世の中い世ゝ嫌ゝも文なる時面白く降る汁宗祇 蝶夢集出于雜之部

○歩行ゝ杖はきの坂を落馬の邪 蝶夢集に出る異

考 烏丸光廣卿の紀行よくたゝれく

ちらくり過る旅人のこれ坂つきの墨とも

みき

共幻住菴記通計九十五句

○附録
幻住菴記略解　全文猿蓑集ニ出依テ略ス
支考文操ニ　祖翁ニ幻住菴の文ハ三通
ありて始の一通ハ落柿舎にあり中の
一通ハ賦なり終の一通ハ猿蓑集に
出る也賦ハ支考文操にみへたり
翁ここに隠るる事二年ばかり○翁
の號初ハ杖銭子中ごろ風羅坊終に
芭蕉菴　標号ハ曲翠の地の名別ならんや　杖銭と風羅とハ例の狂名なるべし

○石山の奥　江州之南　勢多○新古今　都にも人や
まつらん石山の峯に残れる秋の夜の月　長能
○翠微○山のなかば
○鳰の浮巣○　夫木　かくれ家やおなじ浪のうきすの心にして
さだめなくつかる世をたのむらん
○入し山のやまて出しときへ杉の思ひそふ哉
山家集　ぐらしぬ山やまて出しとおもふ
わすれぬちりなふきし人やまつらん　西行
○宿かし鳥○　支考文操　西行の哥全文を

○魂呉楚東南の坼る日。杜子美登岳陽樓に呉楚東南坼乾坤日夜浮

○身は潯湘洞庭の間。○潯湘川二ツノ名ハ楚國永洞庭半潭州半岳州屬

中華山水勝地

○南薰峯より移る。○家語辯樂解、舜彈五絃之琴造南風詩其詩曰南風之薰兮可解吾民之慍兮

○比良の高根より。萬葉　さざなみや志賀の辛崎幸くあれど大宮人の船待ちかねつ

山風絶ぬれば弱きる延喜の袖のなるゝ雨

○早苗〳〵る哉。○唄なるん色

○田上山に古人を訪ふ。猿丸又は鴨長明

形〳〵道世〳〵を深〳〵山〳〵

名寺　田上の小竹生　〳〵の花も志るめり

〳〵やまゆゑの孔雀〳〵ぬるん　後九条

○黒津の里甲賀郡　名寺　つの形のよるよるか〳〵

[illegible]

○弼代[illegible]

姿形[illegible]

集[illegible]三柳本朝臣人麻呂従り近

江國上来時至宇治河辺作歌一

首其文哥ニ物乃部能八十氏河

乃阿白木爾不知代経浪乃去辺

白不母[illegible]

[illegible]める謂ハ[illegible]思ふに文の詞の義の詞

なり[illegible]

○波濤棠の首[illegible]

菴[illegible]

睡辟山民[illegible]

出[illegible]

芭蕉文集徐佺作陳佺誤也

徐老海棠[illegible]果上元注云徐佺樂[illegible]道隠[illegible]於

藥肆中家有海棠數株結[illegible]其上

時與客[illegible]飲其間○王公羽主簿出[illegible]

菴元注云王道人参禅四方帰結

○波濤棠の首[illegible]

菴[illegible]徐佺徒[illegible]唯

睡辟山民[illegible]屋顔[illegible]

出[illegible]

按スルニ文選ノ波濤ナリ○祇徳

芭蕉文集徐佺作陳佺誤也○山谷集巻之二題濡峰閣

徐老海棠[illegible]果上元注云徐佺樂[illegible]道隠[illegible]於

藥肆中家有海棠數株結[illegible]其上

時與客[illegible]飲其間○王公羽主簿出[illegible]

菴元注云王道人参禅四方帰結

屋ヲ於テ玉薄峯ノ上ニ嘗テ有リ毛人至テ其
間問道ヲ○睉辟 辟与癖同 癖史ニ李嵓巌老
睉ヲ好メリ衆人ト會スルニ食罷ム皆棋ヲ下ス
嵓巌老ハ輙チ就枕ニ睉ル衆ノ數局ヲ閲ルトキ
一度展轉シテ云我始テ一局ナリ公等
幾局ソト云ケルトナリ○厚次顔ハ山ノ高キ㒵ニ
○亂ヲ捫文選ニ十稽康與山巨源ニ絶交書
性復多亂把搔無已ト云云

○[illegible]○解見于参考

○農談日既山の端にかゝれハ○古文前集
雲谷雜詠 朱晦菴 朱文公也 野人載
酒来ル農談日已ニ夕ナリ此立息良已勤感
歎情何ッ極ン帰リ太公テ莫ハ頻ニ来ル林深シテ
山路黙

○罔両
罔両[illegible]○荘子齊物論
罔両問景ニ曰曩ニ子行ツ今子止ル曩ニ子坐ス
今子起ッ云云 口義ニ罔両ハ影ノ邊ノ淡キ薄キ
者ヲ云此即是非待ッ彼ヲ之喩也

○佛羅祖室

出所不詳追可考

○樂天八五勝の神をやどす　有三休詩

充嶺寄樂天詩老逢佳景惟惆悵

兩地各傷無限神

○老杜八瘦くらり。老杜名甫字子美　李子白贈杜甫云

飯顆山前逢杜甫頭戴竹葉子曰卓午

為問緣何太瘦生只為從前作詩苦

○まつたの尊　椎柴本もあり夏本五

源氏物語　椎の本のいとなる本乃

もとをたのむへくはらんと

やすらいとく人にはけはりはなし

まし　かくのみなせそ

ちつまいたつらてほとけ

のまへ　花のかをりおくはへ

おくちのもたまひりとゆ

ゆとゆとゆとゆとゆとゆ　やりとゆ

かまくらのほとりにすみけん
ちまきりきこえしをおもひ
出て
ちんかけたのこ 椎の実
ものきこえなりけるかな

薫（カホル）

幻住庵記略解畢

幻住庵記畧解畢

雲出家人恭行云

東京帝国大学

元禄二年の俳諧に於ては己
れの発句を主とし其外は
句毎に考を書捕の書
不足なり 梓にしるす
多くは理屈にて詩あり也
高尚富麗 且唱和の言
詩歌は男女ともに
情を以て本とす 雅

業強純毫筑紫筆
揮ふるふの美
久能下の素
清友亭
桂之
新亭
松年
英記之

ガラス使用

3

ガラス使用